

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075300220
法人名	株式会社 ケアサービス ちゅうりっぷ
事業所名	グループホーム 咲いた
所在地 (電話番号)	福岡県鞍手郡小竹町大字御徳権現堂115-3 (電話) 09496-6-4188

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年10月27日	評価確定日	平成21年12月10日

【情報提供票より】(平成21年9月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月18日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	7人, 非常勤 3人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造スレート造り 1階建ての1回部分
------	-----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円	その他の経費(月額)	(光熱水費)34,500円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	450 円
	夕食	500 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(9月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 80 歳	最低	61 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中野病院 / ほわいと歯科 / 直方在宅診療所
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム咲いたは、のどかな緑多い環境に恵まれ、周辺は閑静な住宅地となっている。隣接して同法人にて高齢者アパート、デイサービスを運営しており、地域の高齢者ケア拠点を目指して、地域との良好な関係を築いている。今年度は地域との連携の実績により、地域密着型サービスとして理念の見直しを図り、理念を一新している。ホームでは遠方の家族が宿泊できる設備を整え、家族に大変好評である。管理者・職員は共に明るく、施設ケアでは見出せなかった個別ケアを重視しており、日々のケアやサービス提供の中で、入居者が自分らしくあることを尊重し支援している。今後は更なる質の高いケアを目指し、管理者・職員が一丸となって取り組むことが期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回調査より、特に力を入れた点は防災で、緊急時の対応などを含め、入居者の安全面に配慮した設備や訓練の充実を図っている。また、入居者が安心して暮らせるように地域との良好な関係づくりに力を注いでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は介護主任が中心となって日々のケアやサービスを振り返り、管理者・ケアマネ・職員で意見交換を行いながら作成している。自己評価は研修の機会としてとらえ、全員で取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	定期的に2ヶ月に1回開催している。行事や生活状況・介護保険改正・重度化・終末期の取り組み・虐待や身体拘束など多岐にわたるテーマを設定し話し合いを行っている。また、その際、地域情報を把握するなど、積極的に会議の機会を活かすように努めている。会議では外部評価の結果も報告し、ホームとして取り組むべき課題など明確にし外部評価の意義を伝えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	年に1回家族会議を設けている。その際には、施設長が進行役を努め、率直に家族に意見や意向を言ってもらえるように取り組んでいる。また、家族の面会時には、コミュニケーションを図り、意見や苦情などを言ってもらえるように雰囲気づくりや関係づくりに努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、町内会議に参加するなど地域の一員としての役割を果たしている。町内会議では、グループホームや認知症の理解を高めるために説明を行ったり、介護の相談を受けるなど、地域の高齢者ケア拠点としての情報を提供している。また、ふれあい交流面では、地区の幼稚園児や小学生との交流があり、中学生の福祉体験学習なども受け入れ、地域行事(盆踊りや敬老会など)への参加やホーム行事(夏祭りや餅つき大会など)へのお誘いなど年間を通して積極的に取り組んでおり、現在では水害などの緊急事態が発生しそうな場合は、地域の応援があるなど良好な関係を築いている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域密着型サービスとして、地域との良好な関係づくりの実績をふまえ、「心にやさしいサービスの提供・臨機応変に対するサービスの提供・地域に貢献できるサービスの提供」を柱として掲げ、事業所独自の理念をつくりあげている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念の共有を図るために初心を忘れないよう、スタッフルームへの掲示やカンファレンスの際に理念を朗読し、理念に基づいたケアやサービス提供ができるように努めている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	自治会に加入し、町内会議に参加するなど地域の一員としての役割を果たしている。町内会議では、グループホームや認知症の理解を高めるために説明を行ったり、介護の相談を受けるなど、地域の高齢者ケア拠点としての情報を提供している。また、ふれあい・交流面では、幼稚園児や小学生との交流をはじめ、地域行事への参加やホーム行事へのお誘いなど年間を通して積極的に取り組んでいる。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価は、介護主任が中心となって日々のケアやサービスを振り返り、管理者・ケアマネージャー・職員で意見交換を行いながら作成している。自己評価は研修の機会としてとらえ全員で取り組んでいる。外部評価の結果は運営推進会議で報告し、改善内容などを伝えている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	定期的に2ヶ月に1回開催している。行事や生活状況・介護保険改正・重度化・終末期の取り組み・虐待や身体拘束など、多岐にわたるテーマを設定し話し合いを行っている。その際、地域情報を把握するなど、積極的に会議の機会を活かすように努めている。会議では、外部評価の結果も報告し、ホームとして取り組むべき課題などを明確にし外部評価の意義を伝えている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム 咲いた

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	小竹町福祉課・町内のグループホームと小竹町運営推進会議を開催し、情報交換や交流を図っている。ホームが抱える問題点や課題などを話し合っている。また、平成20年12月24日の広域連合鞍手支部の声かけにより、徘徊ネットワークの会議が開催され、ネットワーク化に向けた話し合いを行い、21年4月には連絡網をつくり体制を確立している。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	制度の理解を育むために契約時には入居者・家族に説明している。成年後見制度を活用している方がおり、また運営推進会議で説明するなど制度の理解を育み、職員についても学習する機会を設け、制度の周知を図っている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月一度、「咲いた便り」を発行し、個別に日常生活の様子や健康状態・行事報告などを写真をそえて送付し、入居者の暮らしがわかるように報告している。家族が遠方にいる場合は、入居者の代筆を行うなど家族との関係をサポートしている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	年に1回家族会議を開催している。その際には施設長が進行役を努め、率直に家族に意見や意向を言っていたりできるように取り組んでいる。また、家族の面会時には、コミュニケーションを図り、意見や苦情などを言っただけのように雰囲気づくりや関係づくりに努めている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	入居者の不安やダメージなどを考慮し、法人内の異動がないように取り組んでいる。離職などの場合は、施設長・管理者がサポートできる体制を築き、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。必要な資格・免許などを持ち、ケアやサービスに関して、思いや価値観が合い、清潔な印象などの条件が合えば採用するなど検討している。施設長は、職員が生き生きと働くことができるように、職員の処遇改善や働きやすい環境などを問題点として掲げ、前向きに改善に向けて取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム 咲いた

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	入居者の人権を尊重するために、入居者の訴えや思いを受けとめることを第一に担当制を導入している。日々の入居者への声かけなどは、特に職員間で注意するように指導している。施設長は、入居者の人権を尊重したケアやサービスが提供ができるように、職員が自ら考え行動することが最も重要と考え、必要な場合は、皆で話し合っ解決していくように取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	福岡県社会福祉協議会の研修情報を把握し、職員が段階に応じて受講できるように支援している。研修報告書があり、伝達研修なども行っているが、伝達研修の記録の整備が望まれる。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	年に1回、町内のグループホームと小竹町運営推進会議を開催し、ホームで困っている点・問題点(書類のフォーマットや記録の取り方・運営推進会議の運営・経営面の問題・職員の確保など)を話し合い、今後のネットワークを高め、地域に向けて認知症の理解を育んでいきたいと考えている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居される場合は、体験入居や見学、なじみの物を持っていただく環境づくりや家族の宿泊など、本人が安心して暮らしていけるように支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	日々の暮らしの中では、入居者のこれまでの暮らしを尊重し、掃除機かけ・畑づくり・味噌づくり・漬物づくりなど得意なこと、できることを暮らしに取り入れている。職員は入居者から料理のアドバイスを受けるなど入居者から学び、生活の智恵として受け継いでいる。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム 咲いた

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は入居者の思いや意向の把握に努め、介護日記に記録し共有化を図っている。また、家族の面会時に生活歴や環境など情報把握に努めている。今後は、更に職員間で協力し、入居者の思いや意向の記録の取り方など、掘り下げていくことが期待される。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は日々の健康・疾病管理などを含め、長期目標・短期目標に応じて、きめ細かくサービス内容を記載しているが、サービス内容のポイントを絞ることが期待される。看護日記は、入居者の健康・疾病管理に関して夜間の経過観察の内容を含め、状態変化に応じた注意や対応が記載されている。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>1ヶ月ごとにモニタリングを行い、状態変化に応じた介護計画の見直しを行っている。モニタリングの際には、評価の中で問題点などを記載すると、より効果的なサービス提供につながると考えられる。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>遠方の家族が面会に訪れた際には、家族が宿泊できる空間があり、大変好評である。隣接している同法人のデイサービス・高齢者アパートと合同で夏祭りや餅つき大会を行い交流やふれあいの機会が多い。年1回、県外など温泉旅行を楽しむ企画を立て入居者の楽しみとなっている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居者が希望する医療機関での受診を支援している。週1回、訪問診療があり、適切な健康・疾病管理を行っている。</p>		

グループホーム 咲いた

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	「重度化・終末期のケア対応指針」を作成している。運営推進会議では「重度化・終末期」の取り組みについて取り上げ、入居者の方々が安心して暮らせるように、主治医と話し合いながら対応していくことを報告している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	入居者への声かけや関わり方に注意し、コミュニケーションの充実を図っている。気にかかることがあれば、ミーティングや会議・面談にて早急に解決するように取り組んでいる。介護記録や個人情報などは、事務所に保管・管理している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	ホームでは朝の過ごし方が最も重要であると考え、朝の入居者の状態を第一にその日の過ごし方に配慮している。朝の本人のペース・意向を尊重し支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
希望					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	野菜は地元の鮮度が高いものを届けてもらい、新鮮で安全な野菜を食べることができるように取り組んでいる。入居者は皮むきや盛り付け・配膳など、できることを行っていただくように支援している。おやつは、まんじゅうや蒸しパンづくりなど手作りのものを楽しみにしていただけのように取り組んでいる。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	基本的に入浴希望があれば、入居者の希望を尊重し、毎日いつでも入浴を楽しんでいただけるように取り組んでいる。ホームでは入浴の意向を考慮し支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム 咲いた

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	ホーム敷地内に畑があり、入居者が畑づくりを楽しむことができる。また、ゴミ捨てや水くみ・掃除機がけなど入居者の残存能力を活かし支援している。年1回、県外など温泉旅行を楽しむ企画を立て入居者の楽しみとなっている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	日課として散歩を行い、本人が希望する場合には買物に同行するなど、外出の機会をつくっている。月に1回、季節の花見など季節感を感じていただけるよう取り組んでいる。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	施設長・管理者・職員は、鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は、鍵をかけないケアを実践するために職員の見守りを徹底している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年2回消防訓練を実施している。今年度は、ホームの立地環境により水害の恐れがあり、地域の協力を得ることができた。今後は、夜間帯を想定して訓練を実施していきたいと考えている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	調理専門の職員がおり、料理は1500calを目安に献立を作成している。水分摂取量は、1000～1500ccを目安としており、水分摂取が足りない方には、ゼリーや水分が多い果物などで摂取できるように工夫している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム 咲いた

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間は日当たりがよく明るく、開放感溢れる造りとなっている。キッチンも、壁際に設置してあるが広く、入居者の様子を見ながら調理ができるようになっている。また、壁には、入居者の書や作品が飾られ、楽しい雰囲気となっている。入居者は思い思いにソファなどでくつろぎ、居心地のよい空間となっている。また、絨毯は滑りにくい種類の物を採用している。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室も共用空間と同様に、滑りにくい絨毯を採用している。居室は、テレビや仏壇など、それぞれ思い思いの物が置かれ、過ごしやすい個性的な空間となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			